一橋大学

〒186-8601　東京都国立市中2-1　入試課　TEL 042-580-8150　http://www.hit-u.ac.jp/

社会科学の研究総合大学として 質の高いグローバル人材を育成し 世界最高水準の教育研究拠点を目指す

蓼沼宏一学長
（たでぬま・こういち）

2015年に創立140周年を迎えた一橋大学は、わが国の社会科学研究をリードするとともに、少人数のゼミナール制度をはじめとするユニークな教育システムにより、幾多の優れた人材を育成してきました。

2014年に設立された社会科学高等研究院は、研究の一層の高度化・国際化を推進する拠点として世界や日本の社会課題解決に向けた研究を展開。質の高いグローバル人材を育成するため多彩なプログラムを実施しているのをはじめ、学部・修士一貫のグローバル教育システムを構想。社会の要請に応えて、ビジネス、法務、公共政策等の高度専門職業人（プロフェッショナル）の養成にも力を注いでいます。社会の改善に資する真の実学を通して、世界及び日本の政治・経済・社会に貢献し、社会科学における世界最高水準の教育研究拠点となることを目指しています。

Captains of Industry(1)の精神で3つの重点事項に取り組む

1875年開設の商法講習所を前身とする一橋大学は、社会科学の研究総合大学として、わが国の発展に貢献してきました。そのミッションについて、研究教育憲章は「日本及び世界の自由で平和な政治経済社会の構築に資する知的、文化的資産を創造し、その指導的担い手を育成すること」と謳い、伝統的にCaptains of Industryの養成を担ってきました。

蓼沼宏一学長は「Captains of Industryは、単に実業をうまく切り盛りするだけではなく、日本および世界の自由で平和な社会の構築に資するリーダーでなければなりません。さらに、そのスピリットは経済に限られるものではなく、法や政治、社会、学術等のあらゆる分野に生かされるべきものです。グローバル化の急速に進む世界で、このミッションを達成するために、本学は研究と教育の両面で一層の高度化と国際化を進めています」と語ります。

その取り組みの具体策として公表したのが「一橋大学強化プラン」です。「社会科学高等研究院を中核とする世界最先端の研究の促進」「質の高いグローバル人材の育成」「世界水準のプロフェッショナル・スクールの構築」を3つの重点事項として掲げ、社会科学における世界最高水準の教育研究拠点となることを目指します。

社会科学高等研究院を軸に社会の改善に貢献する研究を推進

蓼沼学長は「一橋大学は実学としての学問研究に強みがあります。社会科学の理論・実証分析に基づいて、実際に社会の改善に貢献する。つまり、社会に実りをもたらす学問であるということが重要です。そして実学の基盤としての基礎・応用研究も重視しています」と話します。

こうした研究の推進と高度化・国際化を実行するため、2014年度に「社会科学高等研究院」を設置。世界水準の発展と創造的展開が望める分野や、グローバル社会の要請に応えて貢献できる分野を重点的に強化するとともに、各分野のフロンティアで活躍する研究者を招聘し、一橋大学の教員との共同研究を推進します。また、2015年から毎年8月に「一橋サマー・インスティテュート」を開催。4つの専門分野の国際会議を連続的に開くことにより、分野の枠を超えた国際的な研究交流のハブを形成しています。

「研究活動が軌道に乗り始めた“旬”の教員には、サバティカル（研究専念）制度を適用し、社会科学高等研究院の兼任教員として研究に集中してもらいます。また、海外から招聘した研究者に、大学院生向けの特別講義やセミナー、論文指導を担当してもらうなど、次世代の研究者の養成も活性化させています」と蓼沼学長は語ります。

少数精鋭のゼミナールで質の高いグローバル人材を育成

ゼミナールを核とする少数精鋭教育は、一橋大学ならではの特色です。ゼミナール制度は一橋大学が日本で最初に導入したもので、必修科目として教員1人に学生平均7～8人という少人数で構成されます。ゼミでは各学生の発表と全員によるディスカッションを中心に密度の高い教育が行われています。

学部間の垣根が低いのも特徴で、学生は自分が所属する学部の科目だけでなく、他の学部の科目を履修することができます。さらに、東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学との四大学連合をはじめとする大学間連携により、他大学の科目の履修も可能です。こうした学修により、人材の基幹となる深い思考力・表現力と幅広い教養を培います。

さらに、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力と専門的能力を磨くための多彩なプログラムを用意しています。例えば、「一橋大学海外派遣留学制度(2)」により、2016年度は111人（学部生1学年全体の約11%）の学部生が奨学金付きで1年間の留学。短期の留学・研修を含めれば、毎年400人前後の学部生を海外に派遣しています。

蓼沼学長は「2015年度からHitotsubashi English Institute by University of Pennsylvaniaを実施しています。これはペンシルバニア大学の講師による、ビジネスなどの内容を盛り込んだ英語のプログラムを一橋大学で開講するものです。また、『グローバル・リーダーズ・プログラム(3)』という特に意欲と能力の高い学生を対象にした特別プログラムを全学部で実施しています」と語ります。

多彩なプログラムを実施し高度専門職業人を養成

一橋大学は、高度専門職業人（プロフェッショナル）の養成にも強みを発揮。ビジネス・スクール、法科大学院、国際・公共政策大学院における教育の質は、日本で最高水準の評価を得ています。そのプロフェッショナル教育をさらに拡張発展させる計画を進めています。学部・修士一貫のカリキュラムに1年または半年の留学を組み込み、それを含めて学部入学から5～6年間で修士の学位を取得できる教育システムを構想。海外では、企業の管理職や国際機関の職員などは修士以上の学位を持っていることが当たり前になっており、グローバル化する現代社会で活躍するために必要な知識と能力を持つ修士課程修了生の数を増加させようというものです。

また、大学卒業後も人生の各段階で学びたいという人々が増えており、企業の最高経営責任者（CEO）や最高財務責任者（CFO）、及びそれを目指す層の能力向上を目的とするエグゼクティブ・プログラムを実施。さらに近い将来、医療・介護が最大の社会問題になることを考慮し、東京医科歯科大学との連携による医療経済の高度専門職を養成するための新しい教育プログラムを2017年度に開始しました。

蓼沼学長は「一橋大学は一人ひとりの学生に向き合い、大切に育成して社会に送り出す大学です。教員と学生が近い距離にあり、密度の高い教育が行われているのが最大の特色です。世界の社会問題に関心をもち、その課題を解決していくという熱い志をもって本学に来てほしい。それに応える豊富なプログラムを一橋大学は用意しています」と受験生にエールを送ってくれました。

伝統のゼミナールと学部を超えた自由な学びで「基幹となる力」を養う。密度の濃い教育から世界へ飛躍する人材が育つ。

NOTES

(1)Captains of Industry

Captains of Industryという語は、19世紀イギリスの歴史家・思想家トーマス・カーライルが著したPast and Present（邦題『過去と現在』）の第4編にある。カーライルは当時のイギリスにおける拝金主義を批判し、Captains of Industryとは「混沌、必然、諸悪に対して戦い、人類を導く真の勇者」であるとしている。

(2)一橋大学海外派遣留学制度

一橋大学は、1987年に同窓会組織の如水会や企業などの支援により「一橋大学海外派遣留学制度」を開始し、学生交流協定締結大学へ奨学金付きで1年間の派遣留学を実施。近年は、独立行政法人日本学生支援機構の支援事業にも採択されている。

現在、学生交流協定大学は38カ国3地域の108大学に上る。これらの協定大学への交換留学に際しては、留学期間中も一橋大学に授業料を納めることになるが、留学先の大学の授業料を納めることはない。

(3)グローバル・リーダーズ・プログラム

文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」（2012年度～2016年度）に採択されたプログラムで、商学部と経済学部で実施。2017年度からは全学部に拡張している。15人～20人程度からなる少数の特別クラスで、外国人教員による少人数の授業やゼミナール、さらに1年間の留学が必修になっている。英語による専門科目についてもかなりの単位数の履修が義務づけられている。このクラスの学生に影響されて、周囲の学生もグローバル化への対応に必要な学修の重要性を認識するなどの波及効果がある。